

何度聴いても始まった瞬間に笑顔になってしまうのが『クリスマス・オラトリオ』です。ぼんやりしていたり、緊張していたり、思い悩んでいたり、私たちは日頃いろいろなものを抱えています、それが魔法にかけられたように吹き飛ばされてしまいます。合唱が「ためらいを捨てよう、嘆きを追い払おう ～Lasset das Zagen, verbannet die Klage～」と歌い出すよりも前に。

『クリスマス・オラトリオ』は朗らかで親しみやすく、わかりやすい音楽です。でもその親しみやすさは、何か大事なことを犠牲にして(無かったことにして)得られたものではありませんし、わかりやすいといっても、単純すぎて飽きがかかることもない。神秘的な物語だけれど、怖がらせたり緊張させたりしない。確信に満ちていても、謙虚さを失わない。大きく高く、広く深く、軽やかで力強い。喜びと生命と知恵に溢れています。

そんな魅力を兼ね備えています、バッハがそのバランスやさじ加減を工夫したと思わせる形跡はありません。何もかも自然に、生まれたてのように流れます。それが一番驚くべきことかもしれません。

2月の『メサイア』に続いて、宗教音楽の大傑作に取り組めることを楽しみにしています。

寺本 義明